

会 議 要 旨

会 議 名	平成30年度第1回 館山市地域公共交通会議
開 催 日	平成30年7月30日（月）午後2時～午後4時55分
開 催 場 所	館山市コミュニティセンター 1階第1集会室
出 席 者	[委 員]合計26名（欠席 5名）※別紙一覧表のとおり [館山市]合計10名（市長・総合政策部長・総務部長・健康福祉部長・経済観光部長・建設環境部長・教育部長・企画課長・同副課長・同係員） ※上記のほか、館山市地域公共交通網形成計画に係る調査業務を受託した、ランドブレイン株式会社の社員が2名出席
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	5名（定員10名）
議 事	<p>【議 事】</p> <p>（1）館山市地域公共交通網形成計画策定に係る調査の内容について（協議事項）</p> <p>（2）館山日東バス千倉線について（協議事項）</p> <p>（3）館山駅開通100周年・市制施行80周年記念事業について（報告事項）</p> <p>【轟朝幸委員（日本大学理工学部教授）講話】</p> <p>・持続可能な地域公共交通を作っていくためのポイントについて</p> <p>【その他】</p> <p>・事業者からの情報提供等</p>
会 議 内 容	<p>◇開会</p> <p>◇館山市長あいさつ</p> <p>◇委嘱状交付</p> <p>人事異動等により委嘱替えを行った委員及び新規委員に対し、委嘱状を交付した。</p> <p>◇会長（館山市副市長）から</p> <p>会議の議事進行を学識経験者である轟朝幸委員に依頼したい旨の提案が会長からなされ、承認された。会議要綱は後日事務局にて改正することが確認された。</p> <p>◇轟座長あいさつ</p> <p>自身の持っている知識をこの地域で展開すべく、お手伝いをさせていただきたい。とは言うものの、私はよそ者である。皆さんがこの地域をどのようにしていくかということについて議論する際のサポートをしていきたい。</p> <p>◇議事</p> <p>（1）館山市地域公共交通網形成計画策定に係る調査の内容について（協議事項）</p> <p>・事務局から「資料1-1」ならびに「資料1-2」に記載の市民アンケート調査や観光客・事業者等へのヒアリング調査、地区別座談会の内容やスケジュールについて説明し、委員から出された意見を考慮しつつ事業を進めていくということで承認された。</p>

【質疑・意見等】

(轟座長)「資料 1-1」の 4 ページに記載の②について、「バス・タクシー等」とあるが、鉄道も入るということでよいか？

(事務局) その通りである。

(轟座長)「資料 1-1」の 4 ページに記載の③について、観光客へのアンケート調査を休日に 1 日実施するとあるが、観光については季節変動もあるため、1 日だけで捉えられるかどうかという点が気になる。季節によって違った観光の形態があると思うが、どうか。

(事務局) 指摘のとおり、1 日だけでは測れない部分もあると思うので、調査日程及び手法について、持ち帰り検討したい。

(轟座長) 既に夏休みに入っているが、間に合わなければ来年度でも良いと思うので、ご検討いただきたい。

(成田委員)「資料 1-1」の 17 ページ、アンケート調査票案の囲み 10 番、問 30 について、「3 つの路線に対し、1, 600 万円の補助金を支払っている」とあるが、どの路線に補助金を支出しているかを市民が把握しているのか。全ての路線に補助金が入っているという誤解を生まないか。高速バスをはじめ、補助を受けていない路線もある。この問いを出すのであれば、市民に「路線バスは補助金を受けないと動かない」という誤解を生じさせないようにしてほしい。

(事務局) 標記を工夫し、各路線の状況について分かりやすくするよう工夫していきたい。

(成田委員) アンケート調査については、高齢者が答えられない場合もある。介護者も回答できるようにするなど、一定以上の年齢の人についてはきめ細やかな対応が必要と考える。一番大事なことは「サイレント・マジョリティ」の声、公共交通を利用する人以外の声を聞くことだと思うので、出来るだけ多く調査票を回収するための工夫を考えていけば教えてほしい。

(事務局) 高齢者にどのように回答していただくかは事務局としても悩んだところ。アンケート調査によっては、79 歳以下などと対象年齢に上限を設けるケースもあるが、公共交通については、高齢利用者がメインユーザーであるため、上限を設けなかった。自身での回答が難しい場合、介護者が聞き取って回答できるようにするなど、回答率を向上させる工夫をしていきたい。

(轟座長) アンケート調査は、個人が対象なのか。世帯が対象なのか。

(事務局) 個人が対象だが、同一世帯で複数の対象者が出ることをないように調整している。

(轟座長) 郵送の宛名等に、同居の方の回答サポートも可などといった文言を入れることで、回答率が上がるかと思うので、検討をお願いしたい。

(真田委員) 公共交通の問題は、全国的に見ても「交通弱者をどのように救済するか」ということだと思う。それであれば、交通弱者の声を会議の場等で反映させられるかがとても大事だと思う。すなわち、弱者の声を拾うことが重要だと考えるので、アンケート実施に当たってはその点に留意してほしい。

(鈴木正一委員) 豊房神余地区では 3 年前、約 800 名を対象に福祉部門でアンケートを行っており、公共交通（外出手段等）に関することも聞いている。今回の調査は内容が重複している部分が出てくると思う。そうすると、地域の中

で「事業が進んでいないのではないか」という声が出てくるのが懸念されるが、どうか。

(事務局) 今回のアンケート調査は、確かに重複してくる部分が出てくると思うが、豊房神余地区で以前行った福祉(助け合い)の観点に加え、まちづくりまで含めた広い分野での考え方を聞くものであり、改めてのアンケート実施にご理解いただきたい。

(鈴木正一委員) アンケート冒頭に、「以前実施したが、まちづくりを含め、様々な視点から今回のアンケートを依頼する」ということを記載願いたい。

(事務局) 検討させていただく。

(轟座長) 対象者を無作為抽出であるため、必ずしも対象者が重なるとは限らないが、事務局にて検討願いたい。

(轟座長) 会議終了後でも、何かお気づきの点があれば事務局へ連絡願いたい。

(2) 館山日東バス千倉線について(協議事項)

- ・事務局から「資料2」に従い、館山市地域公共交通網形成計画の策定内容と整合性を取るため、また南房総市や館山日東バスと路線再編の協議を行っているため、千倉線の運行を当面継続し、その中で必要な見直しを実施していきたい旨を説明。今後、出された意見を尊重しながら、路線の見直しを進めていくということでした。

【質疑・意見等】

(成田委員) これまでの経緯を見ると、ある程度期間を区切った形で合意が得られているが、今回は終期を示さない形で進められようとしている。方向性がはっきりした段階というのがいつ位かは、委員によって考えが違ってくると思うので、誤解を生まないよう、統一的な取り決めをしていくべきではないか。運行事業者にしても、お金が出るから良いという問題ではない。ある程度期間を明示していくべきではないか。

(事務局) 現時点では、いつまでにとというのは未定だが、公共交通網形成計画の策定期間が2年ということを考えると、この間に結論が出るものと考えている。また、千倉線と白浜千倉線(千倉駅～安房白浜)の一本化など、南房総市や館山日東バスとの路線再編協議についても、この間に方向性が出てくるものと考えている。

(成田委員) 2年と決めるのであれば、関係者と調整を取る必要があると思う。次回会議でどうするかという答えを出すというのも一つの手法だと考える。

(轟座長) 関係者間の調整はされているのか?

(事務局) 調整を行っているところ。

(平野副会長:館山日東バス) 三者での協議調整は始めている。館山市では来年度末に網形成計画の策定が終わり、南房総市では再編実施計画を申請中という中で、まずは両市の方向性をすり合わせる必要があると考えている。また、千倉線と、南房総市の白浜千倉線の千倉エリアで重複している区間があるため、効率化を図り、両路線を直通化することで、白浜や千倉から安房地域医療センターへ直接行けるようになり利便性が向上するのではないかとということで協議をしている。なるべく早いうちに再編を進めていきたいと考えている。

(高梨委員:代理 中村課長補佐 南房総市) 今一度、各路線の状況を再確認し、

利用者ニーズを把握しながら、関係者と連携を取りながら良い方向に進めていきたいと考えている。現在、いつまでにというところは決まっていないが、利用者のニーズに沿った形にしていきたいと考えている。

(3) 館山駅開通100周年・市制施行80周年記念事業について（報告事項）

- ・事務局から、「資料3」に従い、次年度は周年が重なることから、これを契機として今一度駅や駅周辺に光を当て、ひいては公共交通の利用促進につながるような記念事業について、関係者と連携しながら進めていく予定であることを報告した。

【質疑・意見等】

- ・特になし

（轟座長）各事業者や商業者等とタッグを組んで取り組んでいくのが良いと思う。

この場でなくても良いので、何かご意見があれば事務局までお願いしたい。

◇轟朝幸委員（日本大学理工学部教授）講話

- ・「持続可能な地域公共交通をつくっていくためのポイント」をテーマに轟委員から講話を行っていただいた。利用者本位のインターモーダリティ（総合交通体系）の確立が必要であること、その確立のためには、「住民、事業者、行政等、様々な主体の役割分担と連携が必要であること」「まちづくりとの連動など、地域と交通の連携が大切なこと」「PDCA サイクルによる事業の継続的改善が必要なこと」などについて解説があった。また、公共交通において、ホームランのような「秘策」は存在せず、地道な取組を継続して続けていかなければならないという話があった。

【質疑・意見等】

（中村委員）正直に言って館山駅東口が寂しい状況であり、シャッター街と化している。後継者問題等もあり、皆悩んでいる。また、都会から帰ってきた高齢者のために、介護タクシーのようなものを取り入れられないか。核家族が多くなってきているので、自宅等に迎えに来てくれるタクシーがあると良いという話を聞く。将来に向け、皆で考えていきたい。

◇その他

委員から以下のとおり情報提供があった。

○今井委員（ジェイアールバス関東館山支店）

- ・ジェイアールバスでは、5月11日（金）から、館山駅周辺で食事や飲み会を済ませた後に帰宅する手段が無いという声を受け、金曜限定で、館山駅22時発の休暇村館山ゆき「フライデーバス」の試験運行を始めている。このバスは、東京駅19時50分発の「房総なのはな号」が直通運転するもので、単身赴任者等が東京から直接帰宅できるようにしている。実績は平均乗客数2名前後と苦戦しているが、館山駅周辺の活性化、館山市のためにとということで試験運行している。また、考えられることがあればなるべくチャレンジしたいと考えている。様々な場面で意見を伺う機会を作りたいと思うので、よろしくお願いしたい。

○平野副会長（館山日東バス）

- ・当社の路線バスの状況については、大変厳しい状況である。補助金をもらいながら何とかやっている状況で、市内線、館山鴨川線については国と県から補助をも

らっているが、運行経費の45%までしか補助をもらえないので、収入で55%をカバーしないと黒字にならず、両路線とも赤字となっている。これまでは高速バスの収益で赤字部分を補填してきたが、少子高齢化の影響や路線網の充実により、今までのように収益が出なくなりつつある。

- ・地域の活性化のため頑張っているが、民間企業の経営の中で限界があることを皆さんにもご理解いただきたい。
- ・館山市の地域公共交通網形成計画の策定が進められることとなり、南房総市でも再編実施計画を申請中だが、双方年数を要するものであるため、計画策定は進めていただきつつ、路線再編については速やかに、現実的に進めていきたいと考えている。

○鈴木康彦委員（代理：福原助役 JR 東日本館山駅）

- ・ダイヤ改正において、数年前から平日の特急全廃や系統分離等により、利用者にご不便をかけている中ではあるが、君津駅で総武線快速への接続をスムーズにし、千葉・東京方面への利便性を確保している。
- ・8月8日の館山湾花火大会において、今年度も臨時列車を運転する。今年度は千葉から直通し館山を結ぶ往復の臨時列車と、館山→千倉間片道の臨時列車の運転を行う。今後も利用者の利便性向上を考えていくので、よろしく願いたい。

○石井委員（JR 東日本レンタリース 駅レンタカー館山営業所）

- ・6月30日から7月8日の間、オープンカー（マツダロードスター）を貸し出す試験を行った。皆さんの宣伝の結果もあり、当初2台用意していたところ、3台に増車した。実績は、3台の車が毎日稼働するなど好調に推移したので、12月下旬になると思うが、オープンカーのレンタルを商品化する予定。今後も多くの方に館山を訪れてもらい、活性化していきたいので、よろしく願いたい。

○高梨委員（代理：中村課長補佐 南房総市）

- ・地縁交通「そら豆バス」の紹介。
- ・公共交通の厳しい地域であり、南房総市の公共交通網形成計画においても、行政に頼り過ぎない地域のキーマンの育成を目標に掲げている。
- ・そら豆バスは、富浦地区の八束、その中の大宮区で「運行会」を5名で立ち上げ運行開始したもので、6年前に集落の商店が無くなったため、月に一度、スーパーや診療所に向けてワゴンを運行しているもの。
- ・経費は、そら豆の出荷で得た収入から充てている。
- ・独居の高齢者からは、近所の人と話す機会が出来た等の好評価を得ている。
- ・市としても、平成28年度、29年度、「地域力を育むモデル事業」として支援をしたところ。
- ・今後も、他地域での展開も含め、事業の動向を見守っていく。

【事務局から】

- ・次回の会議は、1月～2月頃に開催する予定。

◇閉会